

参画と協働による歴史的景観保存の推進（平福地区）

事業概要報告書



平成 23 年 2 月 28 日

兵庫県西播磨県民局

1. 事業の概要

1-1 事業名称 参画と協働による歴史的景観保存の推進（平福）事業

1-2 事業目的 平福地区は、現在でも大正期以前の歴史的建造物が残る風光明媚な地であり、県の景観条例に基づく歴史的けいかんを形成地区指定についても、地元とともに取り組んでいる。

しかしながら、景観形成重要建造物に指定される建築物や、歴史的景観を有する建造物が空き家となり、活用されない場合には、その保全が危惧される。

よって歴史的建造物の活用保存策について、地元と行政が共に考え、今後の活用保存の方策を検討するものである。

1-3 対象とする建造物の名称 瓜生原恒男家住宅

1-4 検討対象とする建造物の所在地 兵庫県佐用町平福

1-5 受託期間 平成 22 年 7 月 8 日 ～ 平成 23 年 2 月 28 日

1-6 事業内容

瓜生原恒男家住宅の利活用に向けて、地元住民の総意としてこの建物を地域にどのように利活用したいのか、またその意志はあるのか。事業を通じて、管理や運営方法などを具体的なイメージとして構築し、継続して活用していくことで歴史的景観を保存し、或いは推進していくため検討する。

学識経験者の講演や平福まちづくり会の構成メンバーを中心にした、県内における歴史的建造物の活用事例見学を実施する。見学先での講演、意見交換をおこない先進地域の事例を学ぶ。それらを背景に検討会やワークショップを実施、住民主体の町屋保存策の提案を整理し、取りまとめるものとする。

1-7 事業の経過

平成 22 年 7 月 28 日（水）7 月度平福まちづくり会定例会議に、コンサルタント事務所がオブザーバー参加し、8 月から実施する事業の今後のスケジュールを説明。

平成 22 年 8 月 26 日（木）たつの市御津町室津を「嶋屋」友の会事務局長柏山泰訓氏の案内で「八朔のひなまつり」と町並みを見学。午後から、国立明石高等専門学校八木雅夫教授の講演及び室津を活かす会会長で自治会長の大西正清氏、柏山泰訓氏の講演ののち意見交換を行う。

平成 22 年 9 月 7 日（火）平福まちづくりセンターにおいて、国立明石高等専門学校八木雅夫教授から室津の再評価と平福の今後の課題についての講演。その後

平福の再発見（お宝）やどう活かすかについて意見交換し、検討会の方針等を確認した。

平成 22 年 10 月 31 日（日）篠山市篠山町河原町鳳凰会館において、篠山市副市長であり一般社団法人ノオト代表の金野幸男氏と、古民家再生プロジェクトにかかわる建築家才本謙二氏による古民家再生の事例紹介や手法の講演を聴く。午後からは篠山城周辺の改修事例の町屋を見学した。

平成 22 年 11 月 28 日（日）朝来市生野町口銀屋「まちづくり工房井筒屋」において、井筒屋運営委員会（指定管理者）中井武四代表に井筒屋の監理運営について、“いくの銀谷（かなや）工房” 齊藤敬子代表に井筒屋を利用した活動についての講演を聴いた。午後からは中井代表の案内で口銀屋の見学を行う。

平成 22 年 12 月 8 日（水）事例見学をとおしてと題し、アトリエフォルム吉田が、第 2 回講演の国立明石高等専門学校八木雅夫教授の講演内容の再確認をし、引き続き室津、篠山、生野を画像で振り返るとともに、輛の浦、龍野、平福、高砂の町並みや祭りについての報告と六日町市における大地の芸術祭と瀬戸内芸術祭を紹介。

平成 23 年 1 月 19 日（水）瓜生原恒男家住宅の利用形態を考えると題してワークショップを開催。平福の未来像を考えるアンケートや平福の名物、平福のここが好きや嫌いなどのポストイット、KJ 用紙などを用いて抽出。4 班に分かれて瓜生原恒男家住宅の利活用に向けて A1 版平面図をもとにアイデアをまとめ発表した。

平成 23 年 2 月 16 日（水）第 6 回ワークショップで提案された 4 つのアイデアを図面化して参加者に提示。広く提案された計画案の整合及び集約を図った。

2. 総論

2-1 住民の平福への思い

この度の事業のワークショップに参加した過半（56%）の人は平福に生まれ平福に育ち今日に至っている。他の人（44%）は平福以外で生まれて、現在平福に住まれている。大多数の人が、平福に在る歴史的な景観や建物を後世に繋ぎたいと思っており、平福に多くの課題が存在することも認識しつつ、いつまでも平福に住み続けたいと思っている。このことは住民がこよなく平福に愛着をもって日々の生活を営んでいることに他ならない。

2-2 平福のお宝と特産物

平福には身近に山野があり町に沿って川が流れている。風光明媚な土地柄は地域に住まう人の自慢である。中でも佐用川の低水護岸に見る石垣と川端の土蔵のある古民家が連なる風景は利神城址と相俟って、誇りともいえるものである。

また、田畑や山で収穫できるものの代表として自然薯が挙げられるがその他にも米・野菜・花や果実、良質の山菜が採れる。山には猪や鹿などの獣肉、川には鮎やうなぎ、シジミや沢ガニスッポンなど多種多彩な収穫がある。

2-3 地域資源としての瓜生原恒男家住宅

平福の北新町には天明3年（1783年）に建てられた町屋が最も古いとされ、同年代の建物もこれ以外に確認されています。南新町にある瓜生原家は享保年間（1716年～）に津山から移り住み、吹屋の屋号で鋳物業を営んでいた瓜生原恒男家住宅は、文化7年（1810年）に建てられていることが知られている。

この町屋の分家である瓜生原二郎家住宅は本家より以前に建設されたとされている。このように平福の歴史的建造物を語る上で、江戸期の現存している数少ない建物のうちの一つである。

瓜生原二郎家住宅、瓜生原恒男家住宅と南に位置する前川信一家住宅が平成17年に兵庫県の景観形成重要建造物に指定されています。

2-4 住民構想

この事業における検討会や事例見学会、講演やワークショップを通じて瓜生原恒男家住宅の活用をするアイデアが列挙される中で、基本的なことが確認された。

一番目は、外から平福を訪れてくれた人をもてなす場として利活用する。

二番目に、住民がいつでも談笑できる集いの場とする。

三番目は、運営は地元において行い外部の手に委ねない。

四番目は、生業であった鋳物に関する展示を通して瓜生原家の歴史を伝える。

五番目に、建物の修復を住民みずからが協働し、できることから始める。

平福における地域力を高め、住民が住みたい町住みたい町を実現するには、住民主体のまちづくりが求められる。地域の資源を掘り起こし、見つめ直して活用する。地元には当たり前過ぎて気付かないこと、見えないことがある。外部からの視線で地域の資産を掘り起こし再認識し評価できる。

平福を訪れた人が町を散策しても“道の駅ひらふく”以外に休息できる所が無い、もてなす場所が無いとの強い思いが存在する。

依って住民自らが主体となり、瓜生原恒男家住宅という今は空き家の歴史的建造物の利活用し、管理運営していくことを切望している。

3. 瓜生原恒男家住宅

3-1 建物概要

敷地面積 406.36 m²

延べ床面積 353.81 m²

主屋 構造 木造厨子2階建て

1階床面積 134.89 m²

2階床面積 55.37 m²

延べ床面積 190.26 m²

屋根：棧瓦葺き

外壁：腰一部横板張り／上部土塗り壁

下蔵 構造 木造平屋建て

1階床面積 45.13 m²

延べ床面積 45.13 m²

屋根：棧瓦葺き

外壁：縦板張り／上部土塗り壁

川座敷 構造 木造平屋建て

1階床面積 37.88 m²

延べ床面積 37.88 m²

屋根：棧瓦葺き

外壁：縦板張り

土蔵 構造 木造2階建て

1階床面積 47.63 m²

2階床面積 32.91 m²

延べ床面積 80.54 m²

屋根：本瓦葺き／一部棧瓦葺き

外壁：土塗り壁



3-2 現況配置・1階平面図



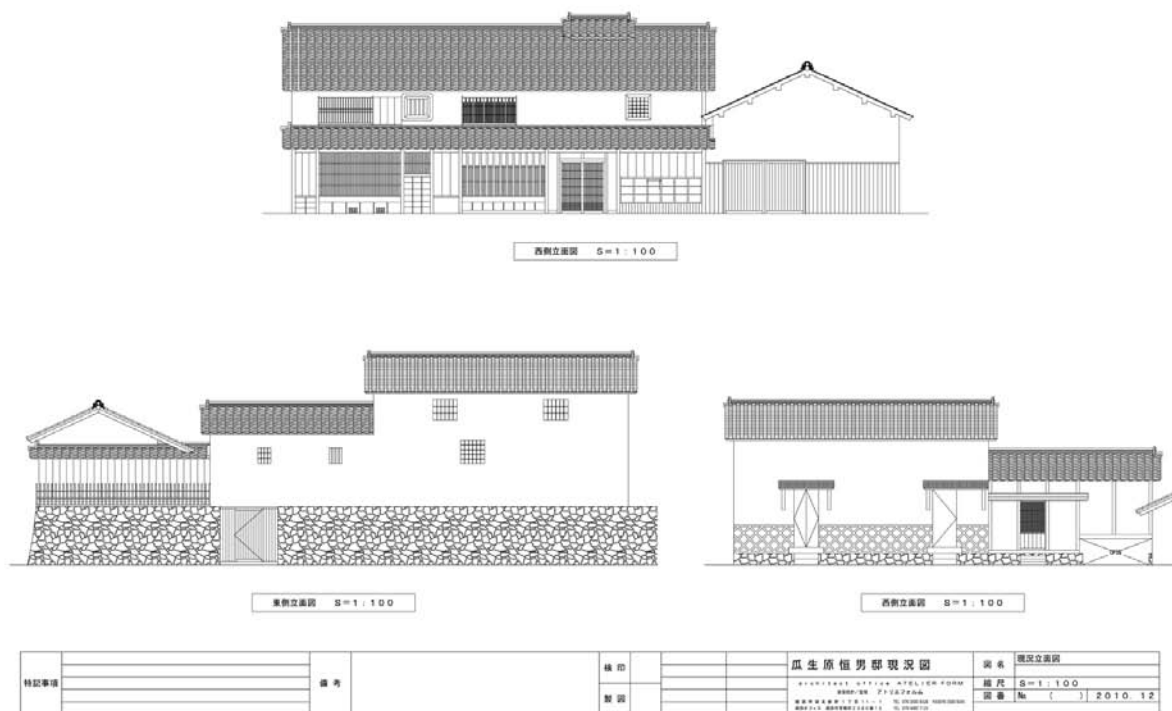
特記事項	備考	棟印	製図	瓜生原恒男郡現況図	図名	現況1階平面図
					縮尺	S=1:100
				製図者	監 ()	2010.12

3-3 現況2階平面図



特記事項	備考	棟印	製図	瓜生原恒男郡現況図	図名	現況2階平面図
					縮尺	S=1:100
				製図者	監 ()	2010.12

3-4 現況立面図



5. 瓜生原恒男家住宅利活用計画（案）

この計画は去る1月19日のワークショップでの意見を反映し、若干内容を付加したものである。

目的 住みよい町平福、住み続けたい町平福をめざしてコミュニティの構築

計画主旨 外部から平福を訪れた方に対して、町中散策の途中に身体を休めていただく場所がない。この現状を克服すべく、平福での景観形成重要建築物の一つである瓜生原恒男家住宅の利活用を考える。

また、歴史的建造物や町並みとは異なった顔の平福を来訪者に見ていただくことで平福への理解を一層深めていただく。その為に地元平福で創作活動をされている方、創作活動しようとしている方達の活動の場、発表の場として施設の整備をする。

一方、既存の集会施設のように日時を設定して会合に使用するというものではなく、地元の誰でもが自由に足を運び談笑できる“場”、“井戸端談義”としての機能を併せて持たせる。これらの利活用計画はできることから始める。

宿泊施設としての利活用については、管理運営面や施設整備の観点から、今後に含みを持たせて、この度の計画には反映しない。

事業 外部からの来訪者へのおもてなし空間&芸術工房・ギャラリーと憩いの場となるよう、瓜生原恒男家住宅を利活用する事業を行う。

運 営 平福まちづくり協議会を運営母体として希望する有志で役割を分担し担う。
食事の提供やお土産ものの販売でわずかでも収益を出せるように工夫をする。
労働に対する正当な対価は得られないまでも、わずかな収益でも分配し活動が評価されることで、モチベーションが上がるように配慮する。将来的には収益が光熱費や施設整備費に充当できることを目標にする。

施設名称 “平福川端の茶屋” など愛着のあるネーミングをつける＝公募することも検討
休憩施設 喫茶と軽食&地元で生産若しくは製造するお土産物の販売

メニュー スローフーズ／オーガニック
(地元で採れるもの：季節の野菜を中心に)
(健康志向から食の安全に対するニーズがある)
(地産地消：自然薯とご飯・麦飯／鮎料理の提供)
(おしながき：例えば“平福ふる里ご膳”)
(単一メニューから始める：仕入れと仕込みのリスクの軽減)
(※ 提供する料理内容と価格のバランスが重要)

営 業 営業日は週〇日とする。
飲食については土・日曜祝祭日に限定。
土・日曜・祝祭日に提供数量を、一日〇〇食程度と限定とする。
(来客数は土・日曜・祝祭日に平日よりも若干多く予想される)
若しくは平日に提供する場合でも数量を少なく限定する。
定休日は、道の駅の定休日を補完する形で重複しないように配慮。
食事はランチから始めてディナーは様子を見る。理由として、地元女性グループの活動に依るところが大きく、終日食事を提供するには家事に大きな負担をかけることになる。
当初は予約か数量限定として広報し、良質なランチの提供を心がけるとともに、“平福ふる里ご膳”の評判と付加価値を高める。

芸術工房と展示ギャラリー

人 選 平福を拠点に活動をしている人、活動したい人で、ふる里平福づくりを住民と一体となって支えてくれる人若しくは団体を募る。

募 集 枠 蔵は3つ在るが、2つの蔵について利用者を公募。
一つは瓜生原家の家業の鋳物に纏わるギャラリーとして使用する。
北蔵 (4.6 坪) 〈利用者： 〉
中蔵 (5.6 坪) 〈利用者： 〉
南蔵 (2.4 坪) 〈利用者： 〉
※何れの蔵も2階の面積は含んでいない。

広 報 瓜生原恒男家住宅を佐用町平福はもちろん全国に周知してもらう事業を行う。

内 容 イベントの開催
佐用町及び佐用町出身の方を対象に、ふる里の味・ふる里グッズコンテストなどを開催 (情報収集と発掘＝人・物・隠れたお宝)

- 会場** 道の駅「宿場町平福」をメイン会場に開催
- ・ コンテストにより平福の家庭料理（味）の確認と発掘
 - ・ クッキー・煎餅・あられや、グッズなど手づくりの逸品を選出。
- 顕彰** 優秀賞やまちづくり協会賞・ベストネーミング賞などを設け、賞状と記念品を受賞者に贈呈。
- ・ レシピやネーミング等、使用权の無償提供を受ける。
 - ・ 選出された優秀作品をメニューやお土産物に反映。
- その他** まち歩き MAP（A4版カラー1枚）を作成して来訪者に配布し、平福の散策を誘う。
平福の風景を題材に絵はがき（写真・スケッチを制作・販売する）
- 関連して** 運営母体を主体にしてオーガニック野菜の栽培（仕入れのリスク負担を軽減する）
（オーガニックを佐用町内外にアピールできる）
（栽培：シルバー人材に活動の場を提供できる＝シルバーの知恵を拝借）
（男性も野菜を栽培。事業を老若男女の区別なく協働で取り組みができる）
（周辺都市部からふる里農園“貸し農園”の参加者を募る＝平福応援団）
（オーガニック野菜にふれるツアーの開催）→ 農作業と食事をセット
（地元住民&平福来訪者にオーガニック野菜を販売）
- 施設整備** 平福の住民を主体にボランティアでワークショップ形式の改修作業を行う。
作業に関して“職人”さんに指導員としての役割をお願いする。
指導員は、ボランティアの方達に作業の割り振りや技術的な指導をする。
安全には特に配慮し、危険な作業を強要しない。作業の前には必ず作業手順のレクチャーと、職人としての経験で培った話など短い講義をする。素人が行う作業である故、時間をかけて丁寧に行い、仕上がりが下手でも、とやかく言わず許容し合う。



鞆の浦 いろはお昼定食



生野口銀谷名物 ハヤシライス



瓜生原恒男家 おくどさん



瓜生原恒男家川座敷からみた風景

1 班 活用アイデア



1 班

一期一会
川座敷にSTAY
(1日1組限定)
平福の歴史と文化を満喫

特記事項	備考	種別	瓜生原恒男邸利用計画	図名	1期活用アイデア 1班
		製図	ATANKA'S ATTICA ATTILER FROM MUSEUM FUSUMI	縮尺	S=1:100
			〒730-0001 広島県福山市瓜生原1-1-1 TEL.0820-220000 FAX.0820-220001	図番	第 [] 号 2011.2

2 班 活用アイデア

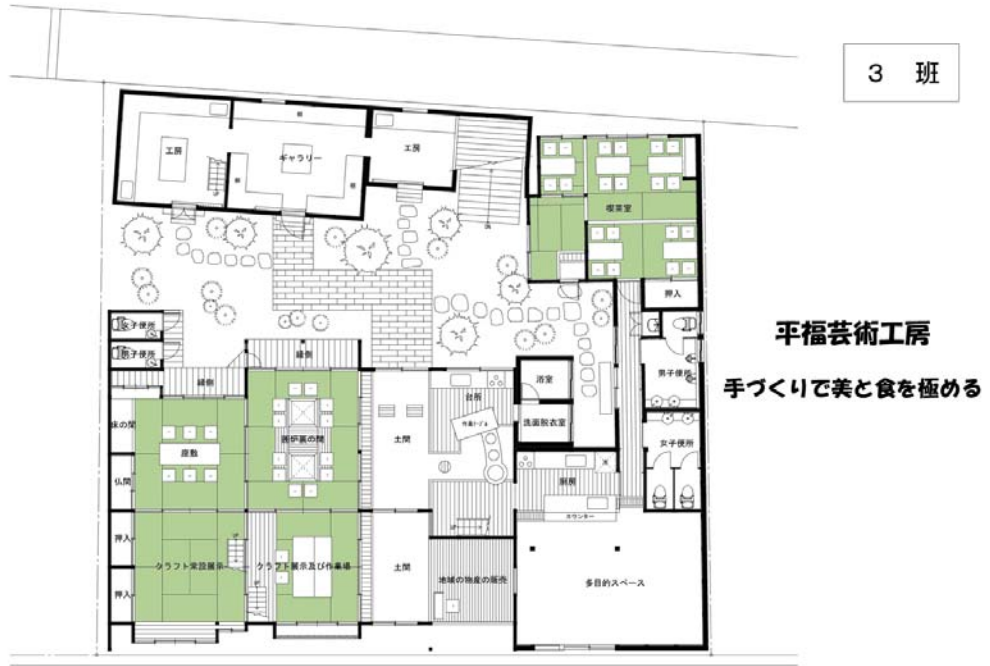


2 班

川端の茶店
まるごと平福
食とアートでおもてなし

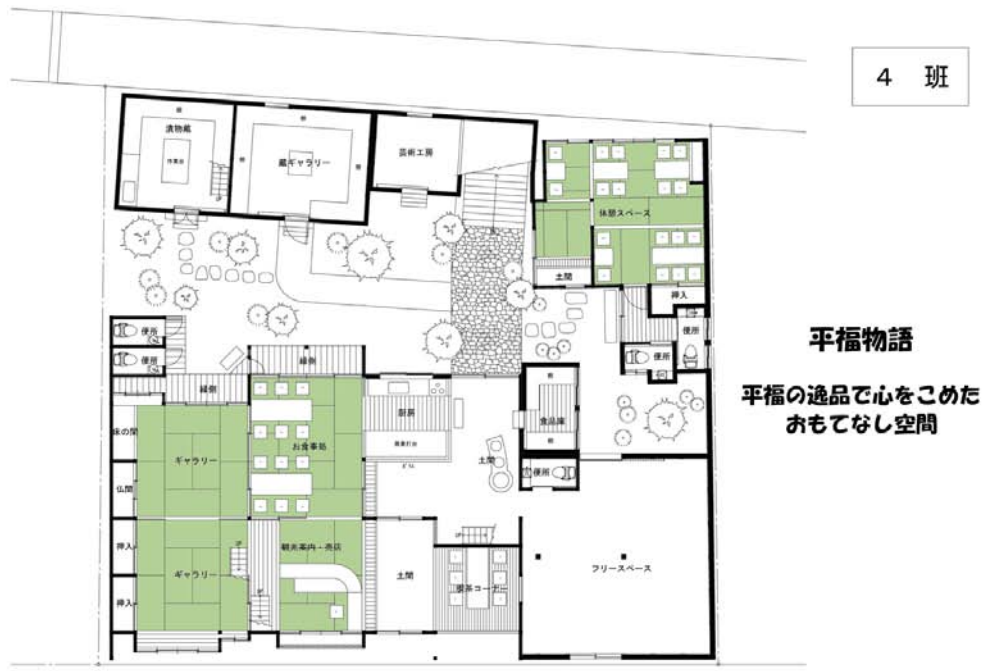
特記事項	備考	種別	瓜生原恒男邸利用計画	図名	1期活用アイデア 2班
		製図	ATANKA'S ATTICA ATTILER FROM MUSEUM FUSUMI	縮尺	S=1:100
			〒730-0001 広島県福山市瓜生原1-1-1 TEL.0820-220000 FAX.0820-220001	図番	第 [] 号 2011.2

3班 活用アイデア



特記事項	備考	棟名	棟印	製図	瓜生原恒男邸利用計画	図名	1階活用アイデア 3班
					***** ATTELION FORM *****	縮尺	S=1:100
					***** PLAN *****	図番	() 2011.2

4班 活用アイデア



特記事項	備考	棟名	棟印	製図	瓜生原恒男邸利用計画	図名	1階活用アイデア 4班
					***** ATTELION FORM *****	縮尺	S=1:100
					***** PLAN *****	図番	() 2011.2